国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

日本水大賞委員会同時発表

令和 2 年 3 月 31 日
水管理・国土保全局河川計画課

第 22 回日本水大賞の各賞を決定

～水循環の健全化に貢献する様々な活動から特に優れたものを表彰～

日本水大賞委員会（名誉総裁：秋篠宮皇嗣殿下）は、第 22 回日本水大賞の応募総数 142 件の中から「大賞」の受賞者を常総市根新田町内会（茨城県）に、「国土交通大臣賞」の受賞者を三条市立第四中学校（新潟県）に決定しました。

【日本水大賞】

活動主体：
常総市根新田町内会（茨城県）
活動名称：
災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み

活動内容：
被災体験地区としての取り組みを、出前講座等を通じて全国に啓発するなど水防災意識社会再構築に向けた活動を実施している

【国土交通大臣賞】

活動主体：三条市立第四中学校（新潟県）
活動名称：
地域住民と連携し地域の防災力を高める水防災教育の取組
～学校中核とした地域防災教育の実践～

活動内容：
学校活動のみにとどまらず、関係機関や地域住民と積極的に連携するなど、学校を核にして地域全体に防災意識を醸成させている

【表彰式及び受賞活動発表会】

日時・場所：令和 2 年 6 月 23 日(火)／日本科学未来館（東京都江東区）
※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、変更する可能性があります。

【日本水大賞とは】

日本水大賞は、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に貢献するさまざまな活動を対象に、社会的貢献度が高い、水防災、水資源、水環境等の分野における活動の中から、特に優れたものを表彰し、広く国民に発信することを目的として、平成 10 年に創設されました。

【問合せ先】国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室
課長補佐 菊地（きくち）、課長補佐 白波瀬（しらはせ）、河川情報係長 木澤（きざわ）
電話：03-5253-8111（直通 03-5253-8446, 内 35322, 35375, 35395）、FAX ：03-5253-1602

日本水大賞

JAPAN　WATER　PRIZE

水の惑星ー地球を形容するのにこれほど適した言葉はないでしょう。水は自然界を循環し、地球上あらゆる生物の生命を育み、生存を支え、汚染を浄化してきました。特に日本においては古来より美しい水を誇り、私たちはその恩恵に浴してきました。私たちはこの美しい水を次世代の子どもたちに受け継ぐことができるでしょうか・・・・。

平成 10 年 6 月、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に寄与することを目的として、日本水大賞顕彰制度委員会（委員長 東京大学名誉教授、国連大学上席顧問 高橋 裕氏）が設立され、事務局が公益社団法人日本河川協会内に置かれました。第 7 回から日本水大賞委員会に名称を変更し、第 12 回より委員長は日本科学未来館館長で宇宙飛行士であった毛利衛氏となり現在委員 13 名及び特別委員 6 名で構成されております。
また、第 17 回より国土交通省が主催者として協働しております。

日本水大賞委員会は、水循環の健全化に寄与する個人、諸団体の地道な研究活動を応募、顕彰し、広く全国に紹介、啓発するための「日本水大賞」を主催し、第 1 回日本水大賞の表彰式・受賞活動発表会が平成 11 年 3 月に秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ盛大に開催されました。また、秋篠宮皇嗣殿下におかれましては、平成 17 年 5 月より日本水大賞委員会名誉総裁にご就任されております。

第 1 回の日本水大賞は大賞の他大臣賞として建設大臣賞、国務大臣環境庁長官賞（当時）が贈られました。その後第 3 回（平成 13 年 5 月）から厚生労働大臣賞、第 6 回（平成 16 年 6 月）から農林水産大臣賞及び文部科学大臣賞、そして第 8 回からは経済産業大臣賞が加わり、水環境行政に関わる全ての 6 省から贈られるまでになりました。
また、第 4 回（平成 14 年 5 月）からはスウェーデンで開催される青少年を対象とした権威ある国際コンテスト、ストックホルム青少年水大賞に参加する日本代表の選考を兼ねた日本ストックホルム青少年水大賞（青少年研究活動賞から改称）が設けられました。2004 年の日本代表、沖縄県立宮古農林高等学校はアジアで初めての大賞（グランプリ）を獲得しました。また、2006 年は京都府立桂高等学校、2018 年は青森県立名久井農業高等学校がそれぞれ準グランプリを獲得しました。
今年で第 22 回となる日本水大賞は、これまで応募総数、延べ 4,197 件（日本水大賞 3,864 件、日本 SJWP333 件）に達し、大賞以下表彰された個人、団体は、延べ 336 件（日本水大賞 292 件、日本 SJWP44 件）を数えます。後援をいただくのは、水循環政策本部、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省の他、関係 34 団体。協賛企業は 6 社 1 団体であり、日本における水環境問題を研究活動する全ての個人、団体を対象とした唯一の賞として、多くの活動される方々の励み、目標となり、広く国民に水循環の健全化の重要性を啓発する機会として発展を遂げてきました。

対象範囲

⑴ 対象となる活動の内容（活動分野）

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

①水防災：
- 防災教育、住民避難の円滑化への取組み
- 水防災に対する安全性の向上に資する技術の開発・普及等

②水資源：
- 水を大切にする取組み、山や川などの水源地を大切にする取組み等

③水環境：
- 川や湖沼、海などの水をきれいにする取組み、水辺や水のある地域づくりを行う活動
- 水にかかわる体験活動、環境学習等

④水文化：
- 水や川、湖沼や海などに対する敬意と親愛を高める活動
- 水や川、湖沼や海などの文化を創り、広める活動（芸術、文学を含む）、地域における水文化の発掘や普及等

⑤復興：
- 上記①から④に該当する活動のうち、地域の復興の視点から実施されるもの

※その他、上記①～⑤に関係する国際的な連携・技術協力・学会活動

⑵ 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような方々が実施する諸活動を対象とします。
なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与し、広く公表します。

①大賞【グランプリ】（賞状・副賞 200 万円）
水循環の健全化を図る上で、活動内容が幅広くかつ社会的貢献度が高く、総合的見地から特に優れたものに対して授与します。

②大臣賞【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】（賞状・副賞 50 万円）
各省の行政目的に関係の深いものの中から、特に優れたものに対して授与します。

③市民活動賞【読売新聞社賞】（賞状・副賞 30 万円）
市民活動の中から、特に優れたものに対して授与します。

④国際貢献賞（賞状・副賞 30 万円）
活動の範囲や効果が国際的であり、人・文化・技術の日本との交流も含め、大きな功績をあげていると考えられるものに対して授与します。

⑤未来開拓賞（賞状・副賞 10 万円）
国内外を問わず水分野における新たな展開を対象とし、特に優れたものに対して授与します。

⑥審査部会特別賞（賞状・副賞 10 万円）
活動がユニークなものなど、審査部会において特に表彰に値すると判断されたものに授与します。

第22回日本水大賞　各賞 （応募総数142件）

各　賞	活動主体	都道府県	活動の名称	活動主体の名称
大　賞	団体	茨城県	災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み	常総市根新田町内会
国土交通大臣賞	学校	新潟県	地域住民と連携し地域の防災力を高める水防災教育の取組 ～学校中核とした地域防災教育の実践～	新潟県三条市立第四中学校
環境大臣賞	団体	高知県	森川里海の人と自然の好循環がもたらす海の中の森づくり	特定非営利活動法人黒潮実感センター
厚生労働大臣賞	団体	東京都	水源地クリーンキャンペーン・エコクラブ探検隊	全国管工事業協同組合連合会青年部協議会
農林水産大臣賞	団体	埼玉県	ホッツケの里山自然環境の保全活動	特定非営利活動法人宮代水と緑のネットワーク
文部科学大臣賞	学校	愛知県	三河湾の環境調査	愛知県立時習館高等学校　SSH生物部
経済産業大臣賞	企業	岐阜県	小水力発電による持続可能な社会の実現	有限会社角野製作所／特定非営利活動法人地域再生機構
市民活動賞	団体	青森県	かけがえのない湧水群を次世代に引き継ぐための事業	十和田市名水保全対策協議会
国際貢献賞	団体	福岡県	マレーシアで魚釣りを楽しむ −水資源保護・環境改善の取組み−	特定非営利活動法人紫川を守る会
未来開拓賞	学校	大阪府	水環境の新たな改善方法 ～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～	清風高等学校　生物部
審査部会特別賞	行政	東京都	荒川下流の柔らかなワンド整備と見試しによる維持運営	北区・子どもの水辺協議会

第22回日本水大賞　各賞　受賞理由

【大賞】(賞状・副賞 200 万円)

活 動 主 体	常総市根新田町内会 (茨城県・団体)
活 動 名 称	災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み
活動の動機・背景	平成27年9月の関東・東北豪雨における被災を契機とした水防災意識社会の構築に向けた地域防災力の向上。
活動の概要	平成27年の関東・東北豪雨を契機とした「地域コミュニティーが命を守る」被災自治会の取り組み。 ・全国に先駆けモデル地区に指定され、住民参加の検討会により「マイ・タイムライン」を作成。 ・自治会が携帯電話のショートメールを活用し、事前防災情報、要救助情報などを全町民に一斉発信。 ・行政と連携し、防災士の育成や防災指導士の連携の場となる常総市防災士連絡協議会の発足・運営。 ・自主防災組織による全世帯への防災啓発活動や全国において、60講演を超える出前講座等の社会貢献活動による「マイ・タイムライン」等の普及促進。
評価ポイント	「地域コミュニティーが命を守る」との理念の下、全国に先駆けた「マイ・タイムライン」のモデル地区として「災害犠牲者ゼロ」に向け住民が積極的に参加し、地域防災力向上に貢献。被災体験地区としての取り組みを、出前講座等を通じて全国に啓発するなど水防災意識社会再構築に向けた貢献度が極めて高い有意義な活動である点。

第22回日本水大賞委員会　委員名簿

名誉総裁　秋篠宮皇嗣殿下		
役　職	氏　　名	所　属・職　名
委員長	毛利　衛	日本科学未来館　館長
副委員長	松田　芳夫	公益社団法人日本河川協会　会長
委　員	赤星　たみこ	漫画家・エッセイスト
委　員	浅枝　隆	埼玉大学　名誉教授
委　員	大垣　眞一郎	東京大学　名誉教授
委　員	大島　一哉	(株)建設技術研究所　相談役
委　員	岡田　光正	放送大学　副学長
委　員	櫻野　泰則	一般社団法人日本建設業連合会　環境委員長
委　員	進士　五十八	福井県立大学　学長
委　員	田中　隆之	(株)読売新聞東京本社　取締役編集局長
委　員	谷田　一三	大阪府立大学　名誉教授
委　員	名執　芳博	特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合　会長
委　員	三浦　啓一	一般社団法人日本経済団体連合会 廃棄物・ﾘｻｲｸﾙ部会長代行
特別委員	藤田　耕三	国土交通事務次官
特別委員	鎌形　浩史	環境事務次官
特別委員	鈴木　俊彦	厚生労働事務次官
特別委員	末松　広行	農林水産事務次官
特別委員	藤原　誠	文部科学事務次官
特別委員	安藤　久佳	経済産業事務次官

＊委員は50音順

令和2年3月5日現在

第22回日本水大賞審査部会 委員名簿

役　職	氏　　名	所　属・職　名
部会長	浅枝　　隆	埼玉大学　名誉教授
委　員	赤星　たみこ	漫画家・エッセイスト
委　員	浅羽　雅晴	科学ジャーナリスト
委　員	安藤　　茂	公益財団法人水道技術研究センター　理事長
委　員	池田　裕一	宇都宮大学地域デザイン科学部　教授
委　員	太田　　進	公益社団法人におい・かおり環境協会　事務局長
委　員	小俣　篤	公益財団法人河川財団　参事
委　員	風間　ふたば	山梨大学大学院国際流域環境研究センター　教授
委　員	金沢　緑	関西福祉大学大学院教育学研究科　教授
委　員	久保　成隆	東京大学　名誉教授
委　員	佐藤　俊彰	(株)読売新聞東京本社　科学部長
委　員	重　　政子	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議　代表理事
委　員	清野　聡子	九州大学大学院工学研究院　准教授
委　員	高木　宏明	一般社団法人日本環境衛生施設工業会　専務理事
委　員	玉岡　かおる	作家・大阪芸術大学　教授
委　員	中北　英一	京都大学防災研究所　教授
委　員	森　　誠一	岐阜協立大学経済学部　教授
委　員	山田　　正	中央大学理工学部　教授

＊委員は50音順

令和2年3月5日現在